

## 緑のカーテン栽培ポイント

- ・本葉 6 枚前後で芯止め
- ・水やりをしっかりと
- ・花を付かせるにはリン酸肥料

## 「緑のカーテン」をより楽しもう！

### より楽しむためのご提案

#### 提案 ミックスカーテン

花が 1 種類だけでさみしいとか、果実が成りすぎて食べ飽きてしまったり消費しきれなくなって困るなどの場合は、1 種類だけじゃなく 2 種類一緒に植える、または花と野菜と一緒に植えて両方楽しむといった「ミックス植え」をおすすめします。初心者でも失敗しにくい組み合わせは「アサガオとフウセンカズラ」「ゴーヤーとアサガオ」などです。栽培時期や管理の違い、相性もありますので初心者には難しいですが、慣れてきたらいろいろ試してみると新しい楽しみ方ができるでしょう。

## ワンポイント

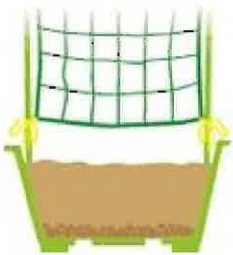
一度栽培した培養土には、植物の老廃物が含まれていることが多いです。その培養土を再利用する場合は、植物の葉、茎、根などのゴミ（植物残さ）をふるいなどを使って除き、土壌再生材を加えて再度使用するか、栄養分も補う必要がありますので新しい培養土を使用します。

# 緑のカーテンの栽培方法

作成・協力：あいち尾東農協

## 基本的な育て方

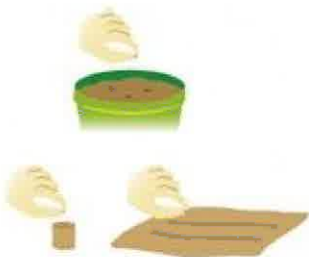
### 土入れ プランター栽培の場合



プランターや鉢をネットに合わせて設置したら、鉢底石を底に薄く敷きつめその上に培養土を入れます。プランターの上部いっぱいまで入れず、水やりした際にあふれ出ないように、縁から

下2 cm 程度すき間（ウォータースペース）を残して培養土を入れます。

### タネまき



タネが発芽するには、光・温度（地温＝土の温度）・水分が必要です。植物ごとにタネを植える深さも異なります。

タネ袋の説明書をよく読んで、特に発芽適温、まいた後の

温度管理には気をつけてタネまきを行ってください。屋外のプランターや鉢に直接タネまき（直まき）もできますが、気温の変化などで発芽しないなど、うまく生長しない場合があります。発芽温度の確保できる室内などでタネをまき、発芽したら日のあたる場所に置き、ある程度生長（育苗）させてから苗として植えつけ（定植）するのがおすすめです。

## 植えつけ＝定植



タネから苗をつくった場合や、ポット苗を買ってきた場合は、プランターや鉢に植え替える定植作業を行います。土がついたままの苗が入るくらいの大きさの穴を開け、そこに苗を入れます。

## 水やり



ふだんの水やりは容器の土表面が乾いたら、鉢底から水が出てくるくらいにたっぷりとやります。水やりは根に水をやるだけでなく土中の空気を入れ替える役目もあります。

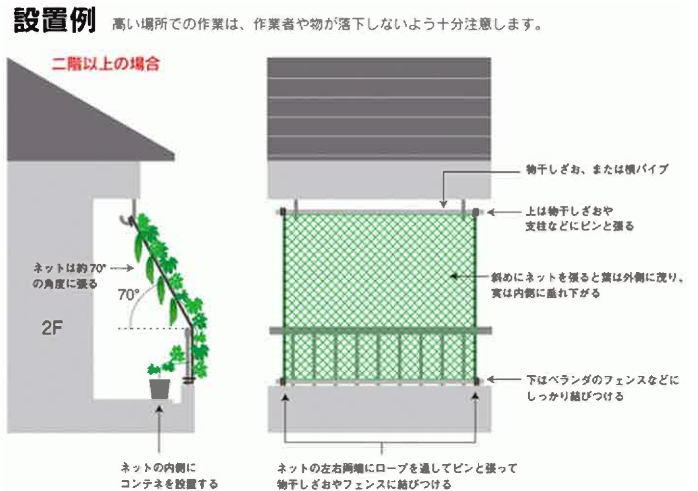
水のやり過ぎと、肥料の施し過ぎが、植物を枯らす二大原因です。土の表面が乾いたら水をやるようにします。

## 誘引



茎が伸びてきたら、はわせたい方向に手でネットに絡ませるように導いてやります。自然には上に向かってはつていきますが、望む方向と違う方向にはっている場合は少しずつ導いてやります。

場所を工夫して利用するか、固定された物干し用金具などを支柱代わりに利用します。壁にコンクリート用粘着フックなどを取り付け、そこにネットを固定する方法もあります。ネットの下部はプランターの重みを利用して、張り（たわみ）の調節をすると便利です。



## 1 人工授粉しましょう

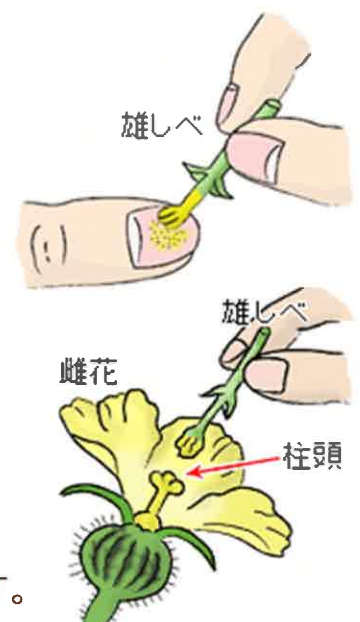
自然界では、ハチなどの昆虫が花の蜜を吸うために飛び回るうち、足などに付けた花粉をめしべへ移すことで受粉が完了します。野菜づくりの場合は、媒介昆虫を待つだけでは、受粉できないかもしれません。また、受粉が遅れて着果しないことも予想されます。確実に実を着けさせるため、適切なタイミングで人工授粉しましょう。

## 2 人工授粉はいつすればいい？

授粉は花粉の活動力が高い早朝（10時頃まで）のうちに行います。遅い時間になると花粉の活動力が下がるので、実が着かない可能性が高くなります。

## 3 人工授粉の仕方

- (1) おしべを雄花から引き抜きます。
- (2) 1で引き抜いたおしべを爪の上に軽くこすりつて、花粉が出ることを確認します。
- (3) 雌花のめしべ先端に花粉をこすりつけます。
- (4) 綿棒や筆でおしべの花粉を雌花へ付けても受粉できます。



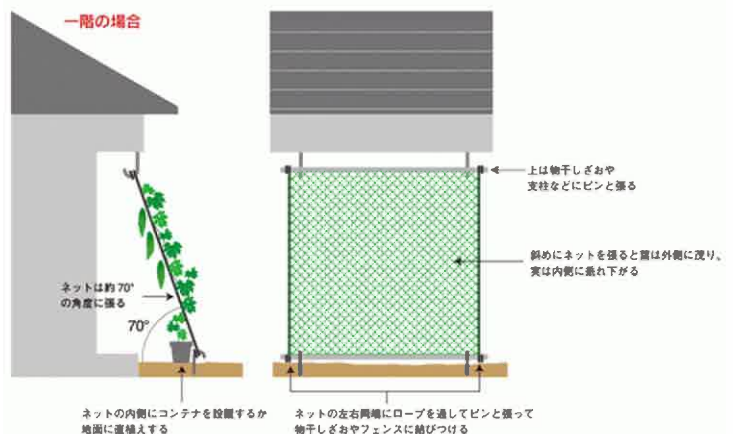
## ネットを設置しましょう

方角、日の差しかた、水やりのしやすさ、排水や人の出入り、物干し場所などを考えて設置場所を決めます。マンションなどでは避難通路や避難ハッチの開閉を妨げないように設置するとともに、土や水、育った植物が隣人や階下住人の迷惑にならないよう気をつけて設置場所を決めます。緑のカーテンが生長すると、果実の重さや台風などの強風でネットが切れて飛ばされてしまうなど思わぬトラブルになることがあるので、しっかりと設置することが大切です。とくに二階以上の高いところに設置する場合はより注意が必要です。高い場所での作業は、作業員や物が落下しないよう十分注意します。

### 一階の場合

二階にベランダなどがあれば柵や手すりにネットの上部をしっかりと結びつけます。ない場合は雨どい用の金具（強度を確認）などでも可。ネットの下部はプランターの重みを利用して張りの調節をすると便利です。

**設置例** 高い場所での作業は、作業員や物が落下しないよう十分注意します。



### 二階以上やベランダなどの場合

屋根があれば床と屋根を物干し用の突っ張り棒を使ってしっかりと固定し、支柱にネットを針金などで結びつけます。屋根がない場合は柵や手すりなどの頑丈な

## 追肥



植物は根から、土中の養分も吸収して生長します。だんだんとその養分が少なくなってくるので、何度か追肥作業をします。頻度は植物や本数、生長度合いによって変わります。肥料のやり過ぎも逆効果になるので注意します。肥料の種類は植物によっても異なります。自分の育てている植物に合った肥料を使います。水に混ぜて水やりのときに与えるタイプ（液肥）や、茎の根元に置くタイプ（粒状や固形肥）などがあります。

## 摘芯



茎や葉を増やしてカーテン効果を上げるために、茎の先端部分を摘む作業のことです。植物によって摘芯が必要なものと不必要なものがあり、タイミングなども違います。

## 受粉



実が成るには受粉作業が必要な植物があります。自然に風やムシの力で受粉する場合がありますが、確実ではないので確実に実をつけるには人工受粉作業をします。

## 害虫



植物にはムシが近寄ってきます。ひとくちに「ムシ」といっても、いろいろです。受粉を手伝ったり、土を耕したりするムシもありますが、葉などを食べてしまうムシや病気を運んでくるムシもあります。ムシを近づけない薬や退治してくれる薬もありますが、野菜を育てている場合などあまり使いたくないときは毎日よく観察し、葉の裏などもよく見て、ムシを見つけたら捕殺します。

## 病気



植物も病気になることがあります。原因も症状も対処法もさまざまです。毎日よく観察して何かおかしいと思ったらすぐ調べたり詳しい人に聞いてみたりします。症状の例としては、葉に変な模様が出たり、変色したりしている など。病気は株全体に広がり、一度病気にかかると対処をしても進行を止めるだけで治らないので早い時期に対策が必要です。

### 【1. 植え付け方法】

#### ・ 育苗ポットから苗を上手に抜く方法



苗の株元を、右手の人差し指と中指で挟むように押さえて育苗ポットを逆さにし、左手の人差し指か中指でポットの底の穴から土をゆっくり押し取り出します。穴から土を押し出してもなかなか出てこないときは、底を軽くたたくと出てきます。このようにして苗を取り出すと、根鉢を崩さずに引き抜くことができます。

1. 定植する場所に、植えるための穴を掘る。

2. 育苗ポットの苗を、ポットから抜いて植え穴に入れる。

3. 苗ポットのときの土の上にわずかに土がか

かり、株元が少々盛り上がる程度に土をかけて植えます。土のかけ過ぎや深植えは植物を傷めるので禁物。逆に浅過ぎても根の張りが悪くなります。

4. 株元を軽く手で押さえて土を落ち着かせます。

5. 定植し終わったら、たっぷりと水をやってください。育苗ポットのときの土と、新しい土との境界線よりちょっと外側に水をやるとよいでしょう。



6. その上に土を入れる。水やりの際に、プランターや鉢から土が流れないように、フチから2～4センチ程度余裕を残して入れましょう。また、肥料がたくさん必要な野菜の場合は、ここで肥料も加えましょう。

7. 定植後はたっぷり水をやります。プランターはとくに土が乾きやすいので、乾燥しないように注意しましょう。

